

あれから1週間、バナナは黄色くなった。まず、部分的に真っ黒になって、それから周りが黄色くなった。黄色くなった程度に応じて1本ずつ食べてみた。極めて剥きにくい。確かに柔らかく甘くはなっているが、日本で食べるバナナに比べると甘みが少ないし、舌触りも良なくて繊維を感じる。しかし、食べられることは食べられる。まあ、そうでなければ売っていないだろう。輸出されるバナナというのはそれなりに栽培品種として育種されたものらしい。まあ、当然そうだろうが、勉強にはなった。

バナナが黄色くなるのを待つ間に、ランプータンを1キロ買って食べていた。20ペソだった。このランプータンはまずくはないのだが、食べにくい。身の種離れが悪く、身を飲むことが出来ない。必死に種から身をはがそうとすると、食べるのに時間がかかって暇つぶしになる。

ランプータンの次はミカンを買った。小粒の小さいミカンだが形が整っていて色がきれいだ。いくらだと聞いたら10ペソだという。1キロだと思って買うと言ったら、1個10ペソだという。いくら何でも小さなミカン一個20円は高い。あわてて、5個で良いと言った。それでも50ペソの損失だ。ここではミカンは高級フルーツなのだ。